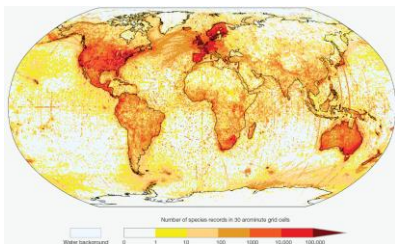


ハイライト・主要メッセージ

- 1. シナリオやモデルは、これまでの普及を妨げてきたいくつかの障壁にもかかわらず、政策支援に大きく貢献できる。**
 - ▶ 自然、自然の寄与、人の生活の質の関係性を考察するための効果的な手段となる
 - ▶ 評価や意思決定支援において、利用可能な最善の科学的知見、先住民や地域の知識の利用に大きな価値を与える
- 2. 多くの関連する手法やツールが利用可能であるが、評価や意思決定支援活動のニーズに合わせて慎重に調整し、モデルベースの予測に伴う不確実性や予測不可能性を考慮して適用する必要がある。**
 - ▶ シナリオ開発や分析の全過程において、政策立案者、実務者、その他の関係者（先住民や地域の知識を有する者を含む）が密接に関与する必要性
 - ▶ 政策や意思決定の状況、対象となる空間的・時間的スケールを考慮し、適切なシナリオやモデルを適用する必要性
- 3. 適切な計画、投資、能力強化などの努力により、開発に残された重要な課題を克服することができる。**
 - ▶ 現在利用可能なシナリオは、適切な時間的・空間的スケールでの関連する要因、政策目標、介入オプションの検討が不完全である
 - ▶ 間接的な要因、直接的な要因、自然、自然の寄与、人々の生活の質などのシナリオやモデルをリンクさせ、統合的な社会-生態系システムレベルのアプローチの開発を進めることが一つの方法である
 - ▶ モデルに関連する不確実性は十分に評価・報告されていない
 - ▶ シナリオやモデルを開発・利用するための人的・技術的能力やデータの蓄積は、地域によって大きく異なる



生物多様性データの利用可能性に空間的な偏りがある例

本評価報告書はシステムとモデルに関する方法論。他のIPBESの評価報告書やプラットフォームの他のタスクフォースや専門家グループによるシナリオやモデルの使用の指針となるもの。